

事案名	徳島市の事案（徳島県36-1）
分類	生産・保有 発見・被災・掃海等処理 現在の状況
資料	<ul style="list-style-type: none"> ・『徳島新聞』平成6年8月5日〔1〕 ・『徳島新聞』昭和32年5月24日〔2〕。 ・『読売新聞』『毎日新聞』昭和32年5月25日〔3〕 ・「『旧軍毒ガス弾等の全国調査』のフォローアップ調査」平成15年8月29日〔4〕 ・「『旧軍毒ガス弾等の全国調査』のフォローアップ調査」平成15年10月10日〔5〕
資料内容概要	<p>徳島県徳島市には、旧陸軍西部33部隊（徳島連隊）と旧日本軍蔵本演習場があった。戦時中、旧陸軍西部33部隊では催涙ガスによる毒ガス訓練が行なわれており、兵器庫にはジフェニルシアンアルシンが保管されていた。また、昭和32年5月には、旧日本軍蔵本演習場で発見されたイペリットを鑑定後保管していた金庫が大学から盗まれ、関係者が被災した事実がある。</p> <p>生産・保有情報</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新聞記事によれば、戦時中、旧陸軍西部33部隊（徳島連隊）は催涙ガスによる毒ガス訓練を行なった。兵器庫にはジフェニルシアンアルシンも保管されていた。イペリットやルイサイトはなかったと記載されている〔1〕。 <p>発見・被災・掃海等処理情報</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新聞資料によれば、旧日本軍蔵本演習場（現在、大学施設の一部）に埋めてあったイペリットを県が処理する際に同大学の薬学部で鑑定を依頼した。その際、同学部では、サンプルとしてイペリット300ccを金庫に保管した。昭和32年5月に同金庫が盗難にあい、関係者が被災した〔2〕〔3〕。 ・当時の関係者は物故し、資料も残っていないので、大学薬学部での被災事故内容を確認することはできないとのことである。また、残るイペリットは昭和45年ごろ、中和処理された〔4〕。 <p>現在の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・証言者への聞き取り調査等により、「旧陸軍西部33部隊の兵器庫の存在した場所は、大学医学部附属病院敷地南東部であった可能性が出てきた。なお同地域の医療機関はともに、地下水を用水として利用しており、地下水のヒ素濃度は0.001mg/L以下であった。また、民家においては地下水の利用はないと思われる」と記載されている〔5〕。